



## IBMのソリューションで勝ち組になったButterfly.net

### 概要

#### 課題

オンライン・ビデオゲームの開発者、パブリッシャー、サービスプロバイダー向けエンド・ツー・エンド・ソリューション、ビデオゲーム業界初の商用コンピューティング・グリッド、Butterfly Gridの立ち上げ

#### ソリューション

オープン・スタンダード・ベースのIBM e-ビジネス・インフラストラクチャーとネットワーク配信型e-ビジネス・オンデマンド・サービス

#### ソリューション

IBM e-ビジネス・インフラストラクチャーを利用した、製品化までの時間の短縮、IT コストの削減、および競争力の強化

#### ゲームが中断されない

オンライン・ビデオゲーム市場のソフトウェア・デベロッパーであり、インフラストラクチャー・プロバイダーでもあるButterfly.net ([www.butterfly.net](http://www.butterfly.net))は、またたく間にエンターテインメント業界と情報通信 (IT) 業界の両方で注目を集めました。Butterfly.netで採用されたソリューション、Butterfly Grid が、会長兼 CEO のデビッド・レバイン氏の頭の中にアイデアとして浮かんだのは、ほんの数年前のことでした。経験豊かなハイテク起業家であるレバイン氏は、従来の大量参加のマルチプレーヤー型オンライン・ゲームのプレーヤーはみんな、パフォーマンスの悪さとサーバーのダウンタイムにかなりの不満を感じていることに気がきました。

通常は、数千人に達することもあるゲームのプレーヤーはすべて、1 台のサーバーでサポートされています。そのため、サーバーがメンテナンスのためにオフラインになると、ゲームが中断され、何時間も待たされることが少なくありません。そして、1 つのゲームまたは1 つのゲーム領域に集まるプレーヤーが多すぎると、反応が著しく遅くなります。そこでレバイン氏は、画期的なグリッド・コンピューティング・テクノロジーを利用すれば、ゲーム愛好者を「サーバーに縛られた」ゲームの利用から解放できるのではないかと考えました。

「プロバイダーがプレーヤーを複数のサーバーに分けられるようにしたかったのです。そうすれば、1 台のサーバーがダウンしても、ゲームそのものは続けることができ、パフォーマンスが落ちることもないのです」と、レバイン氏は言います。現在、Butterfly Grid では、複数のゲームを動かして、同時に何百万というプレーヤーにゲームを提供することができます。これを実現するために、Globus プロジェクト \* を利用して、データセンターのサーバーをリンクしました。使用状況に基づいてリソースが配分され、ビデオゲームの対話機能の処理を最適化しています。



E-BUSINESS ON DEMAND™  
THE NEXT UTILITY™

IBMのe-ビジネス・オンデマンド・ソリューションを利用  
Butterfly.net は、ビデオゲーム業界初の商用コンピューティンググリッドの構築に力を貸してくれるのはIBM 以外にないと判断しました。レバイン氏は次のように話しています。「IBM には、通信回線に依存しない共用施設、Linux に対する他に類を見ないサポート体制、そしてグリッド・コンピューティングにおける深い知識と経験がありました。これが、私たちがIBMを選んだ理由です」。また、Butterfly.net は IBM の e-ビジネス・オンデマンドも利用したいと考えていました。それによって、ネットワークから必要に応じて、標準化されたコンピューティングリソース、ネットワーク機能、ソフトウェア・アプリケーションを入手できるからです。

Butterfly.net と IBM e-business Hosting™は、IBM e-business Hosting Centers™にある e-business インフラストラクチャーを活用したビデオゲーム・グリッドを共同開発しました。ゲーム、ゲートウェイ、デーモン・サーバーの実行には、Linux ベースのIBM @server xSeries™ 330 システムを使用し、DB2® Data Management Software の実行には、xSeries 232 (これも Linux ベース)を使用しています。IBM の協力を得て、Butterfly.net はたった2年でグリッドを開発し、直ちにそれを立ち上げました。リスクを最小限に抑え、適切な投資額でそれを実現しました。「IBM なら、1つの窓口を通してグローバルなインフラストラクチャーを利用でき、あらゆる問題に応えるソリューションを提供してくれます」と、レバイン氏は語っています。「Butterfly Grid のような新製品を立ち上げようとしているなら、これを利用しない手はありません」

「IBMのe-ビジネス・オンデマンドを採用することは、*Butterfly Grid* をサポートするグローバル・ネットワークを持つということです。これで、必要なときに、誰にでも、世界中のどこにでも、信頼性の高いサービスを提供できるのです」

—デビッド・レバイン、Butterfly.net 会長兼 CEO

グリッド・コンピューティングでデジタル・エンターテインメントのパイオニアに

現在では、ゲーム開発者からサービス・プロバイダー、プレーヤーに至るあらゆる人が、信頼性が高く、高速で、コスト効率の良い機能を提供する Butterfly Grid のお世話になっています。Butterfly.net のソフトウェア開発キットを使用しているゲーム開発者や、パブリッシャー、サービス・プロバイダーは、もはや新しいゲームをサポートするための専用インフラストラクチャーを構築する必要がなくなりました。このため、リスクが減り、利益率の向上が望めるようになりました。ゲーム・プレーヤー自身は、ゲームを快適に「中断することなく」楽しめるようになりました。

レバイン氏は、このプロジェクトを企画の段階から実現までこぎつけることができたのは、IBM のおかげだと確信しています。「本当に成功したいと思っているならIBM の協力がが必要です」

#### 詳細情報

このソリューションの詳細については、  
**ibm.com/e-business/ondemand**  
をご覧ください。

IBM製品・サービスの詳細情報等については、  
IBM ホームページ <http://www.ibm.com/jp/>  
をご利用ください。

お問い合わせは、弊社営業担当員  
または、ダイヤルIBM (☎0120-04-1992)へ。  
受付時間：月～金 9:00～18:00 (祝日、12/30～1/3を除く)  
携帯電話でおかけのお客様は下記の電話番号をご利用ください。  
ダイヤルIBM 044-221-1522 (この場合、通話料金はお客様のご負担となります。)

\* Globus Project ([www.globus.org](http://www.globus.org))は、グリッド・コンピューティングの設計および開発を共同で行っている、大学、企業(IBMを含む)と政府機関からなるコンソーシアムです。

IBM、IBMのロゴ、e-businessのロゴ、e-ビジネス・オンデマンド、DB2、IBM e-business Hosting、IBM e-business Hosting Centers、The Next Utility、およびxSeriesは、IBM Corporationの商標。

他の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標。

'02-12月版



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12  
12-02 Printed in Japan

このカタログの情報は2002年12月現在のものです。本資料で言及しているIBMの製品やサービスについては、必ずしもIBM が営業しているすべての国でこれを利用可能にする意図があるということの意味するものではありません。製品、サービス等詳細については、弊社もしくはIBMビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。